2019年3月期 第2四半期
決算説明会

2018年11月20日

Mipox株式会社
証券コード 5381

説明会のポイント

＜2019年3月期 第2四半期累計業績＞

・光ファイバー関連および受託事業で売上が前年より落ち込む。

・販管費の増加もあり、利益は大きく減少。

＜2019年3月期 通期業績見通し＞

・下期は回復傾向も通期予想を修正。

目次

1 2019年3月期 第2四半期累計業績

2 2019年3月期 通期業績見通し

3 2019年3月期 下期以降の取り組み

目次

1 2019年3月期 第2四半期累計業績

2 2019年3月期 通期業績見通し

3 2019年3月期 下期以降の取り組み

2019年3月期 第2四半期累計 業績概要

mipox

(百万円)	'18/3 上期	**'19/3 上期**	前年同期比	
売上高	3,934	**3,806**	△128	△3.3%
営業利益	301	**1**	△299	△99.5%
経常利益	240	**54**	△186	△77.5%
当期利益	151	**3**	△147	△97.5%

(売上面)
日本研紙製品で前年以上の売上。光ファイバー関連および受託事業の売上が減少。

(利益面)
売上の減少や売上構成差による利益減に加え、人件費を中心に販管費が増加。前年を大きく下回った。

2019年3月期 第2四半期累計 セグメント別業績

mipox

（百万円）

		'18/3 上期	'19/3 上期	前年同期比	
製品事業	Mipox製品	2,176	2,181	+5	+0.3%
	日本研紙製品	1,308	1,411	+103	+7.9%
	売上高	3,484	3,593	+108	+3.1%
	営業利益	234	68	△165	△70.9%

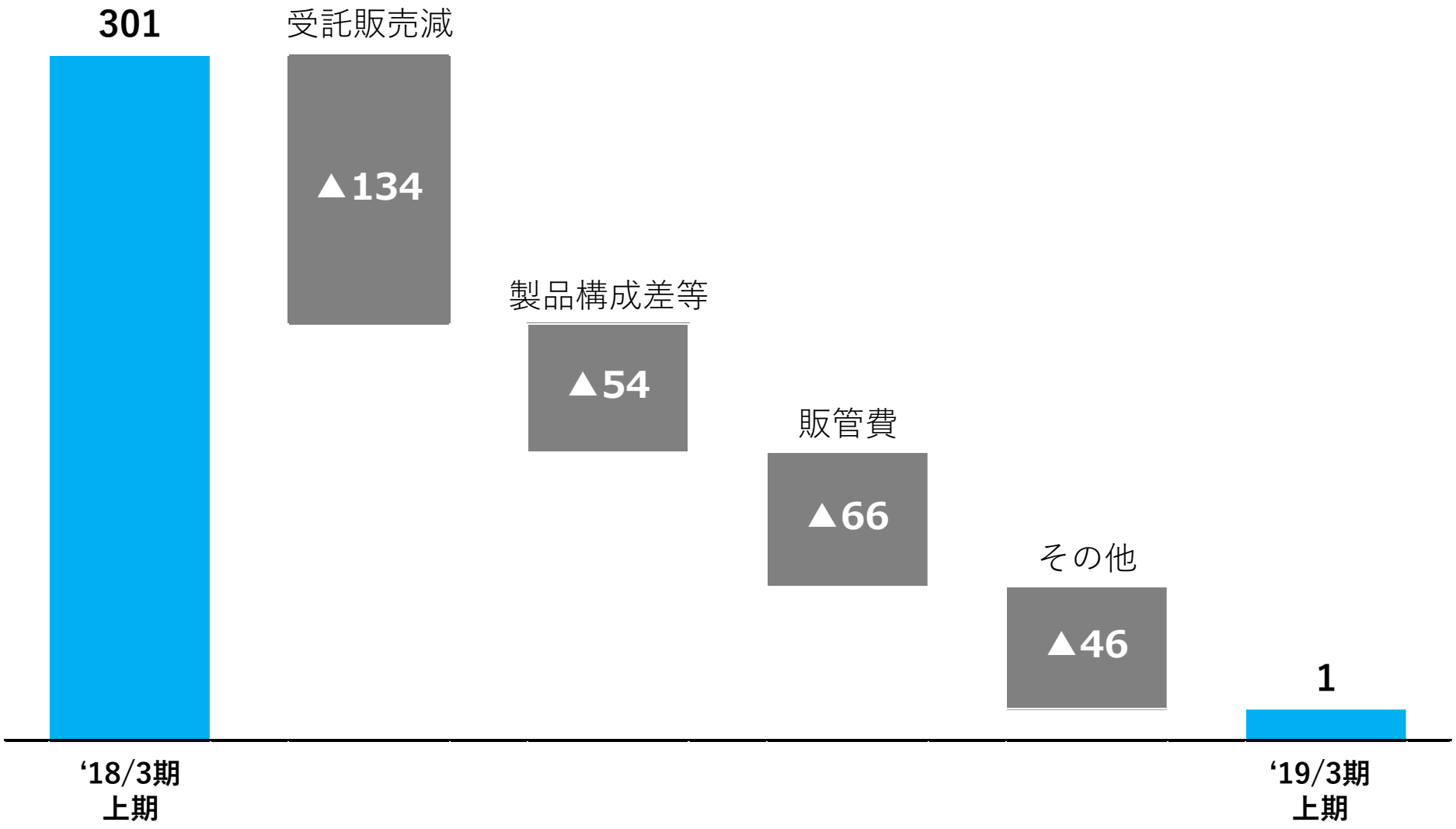
・研磨装置を中心に日本研紙製品の売上が増加。
・売上構成差および販管費の増加で利益は減少。

（百万円）

		'18/3上期	'19/3上期	前年同期比	
受託事業	売上高	450	213	△236	△52.6%
	営業利益	67	△66	△133	△199.5%

光学系特殊フィルムの受託塗布の需要減が主要因で売上・利益共に大幅に減少。

営業利益 増減要因（対前年同期比）



貸借対照表推移

（単位 百万円）

	2018年3月末		2018年9月末		増減
	実績	構成比率	実績	構成比率	
現金及び預金	3,165	26.1%	4,205	30.2%	+1,040
流動資産	**7,506**	**62.9%**	**9,021**	**64.9%**	+1,515
有形固定資産	3,520	29.0%	3,881	27.9%	+361
のれん	262	2.2%	246	1.8%	-16
固定資産	**4,561**	**37.1%**	**4,885**	**35.1%**	+324
総資産	**12,067**	**100.0%**	**13,907**	**100.0%**	+1,840
短期借入金（社債含む）	1,285	10.6%	1,554	11.2%	+269
流動負債	**3,033**	**25.0%**	**4,162**	**29.9%**	+1,129
長期借入金（社債含む）	3,603	29.7%	3,453	24.8%	-150
固定負債	**4,168**	**34.9%**	**4,299**	**30.9%**	+131
純資産	**4,865**	**40.1%**	**5,445**	**39.2%**	+580
負債・純資産合計	**12,067**	**100.0%**	**13,907**	**100.0%**	+1,840
自己資本比率	40.2%		39.1%		-1.1%
借入金合計	4,888		5,007		+119

目次

1 2019年3月期 第2四半期累計業績

2 2019年3月期 通期業績見通し

3 2019年3月期 下期以降の取り組み

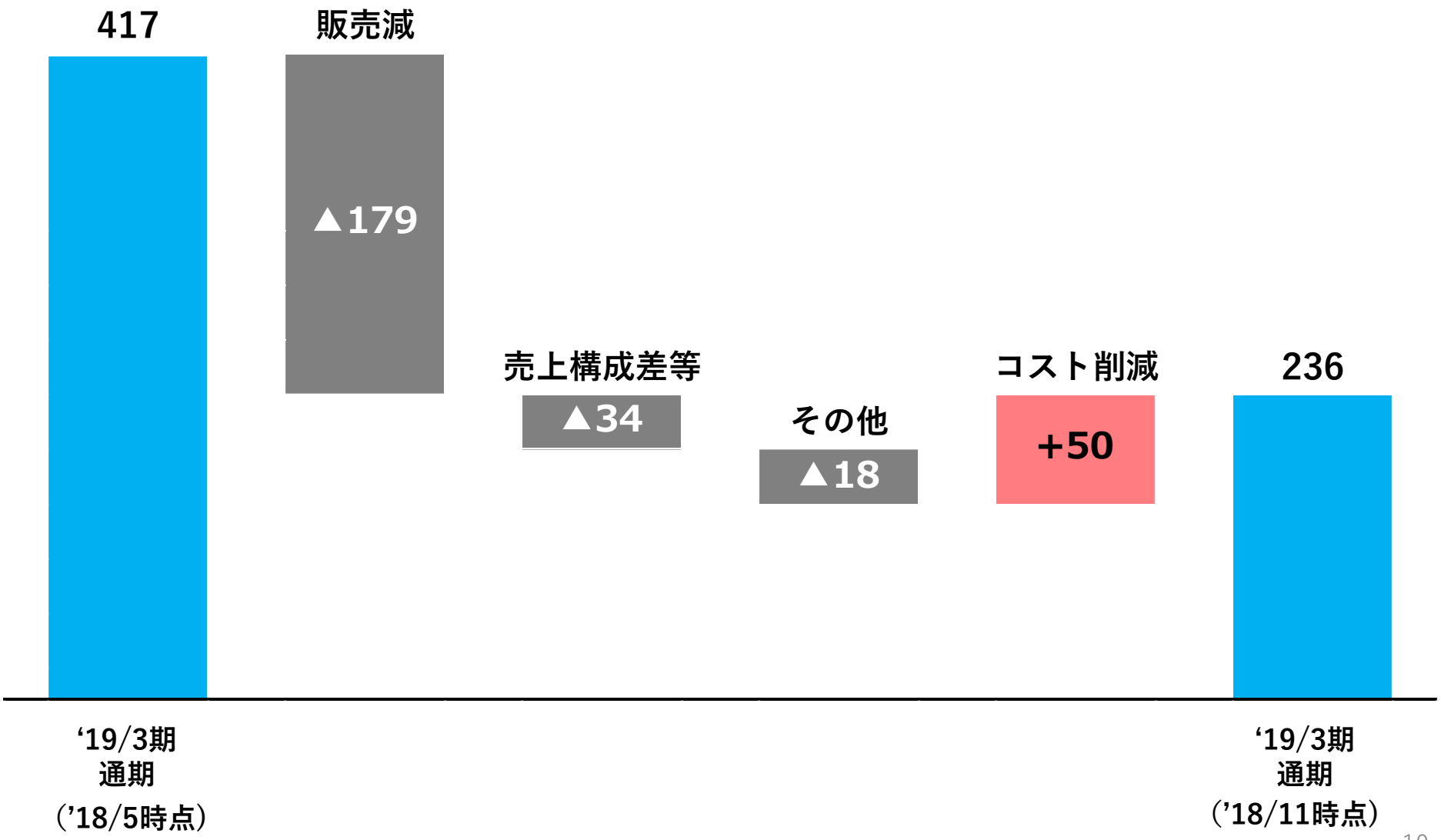
2019年3月期 通期業績予想修正

(百万円)	通期予想 ('18/5発表)	修正予想 ('18/11発表)	増減額	増減率
売上高	8,400	7,900	△500	△5.9%
営業利益	417	236	△181	△43.4%
経常利益	429	270	△159	△37.1%
当期利益	346	176	△170	△49.0%

2018年11月13日に通期業績予想を修正

- 「受託事業」において、光学系特殊フィルムの受託塗布の需要が、市場の鈍化などにより当初見込みより大幅に減少。
- 「製品事業」において、日本研紙製品の海外展開を進めるも、従来のMipox製品との製品特性の違いや市場開拓の遅れなどにより、当初見込みより売上・利益共に減少する見通し。

営業利益 増減要因（対前回予想比）



2019年3月期 通期業績見通し

mipox

(百万円)		'18/3 通期	'19/3 通期	前年同期比	
製品事業	Mipox製品	4,249	**4,431**	+182	+4.3%
	日本研紙製品	2,761	**3,009**	+248	+9.0%
受託事業		816	**460**	△356	△43.6%
売上高		7,826	**7,900**	+74	+0.9%
営業利益		386	**236**	△150	△38.9%

(売上面)
製品事業で前年以上の売上も、受託事業での大幅な減少で、全体ではほぼ前年並みの売上となる見通し。

(利益面)
コスト削減等で下期での利益回復を目指すも、受託事業の売上減の影響が大きく、利益は前年を下回る見通し。

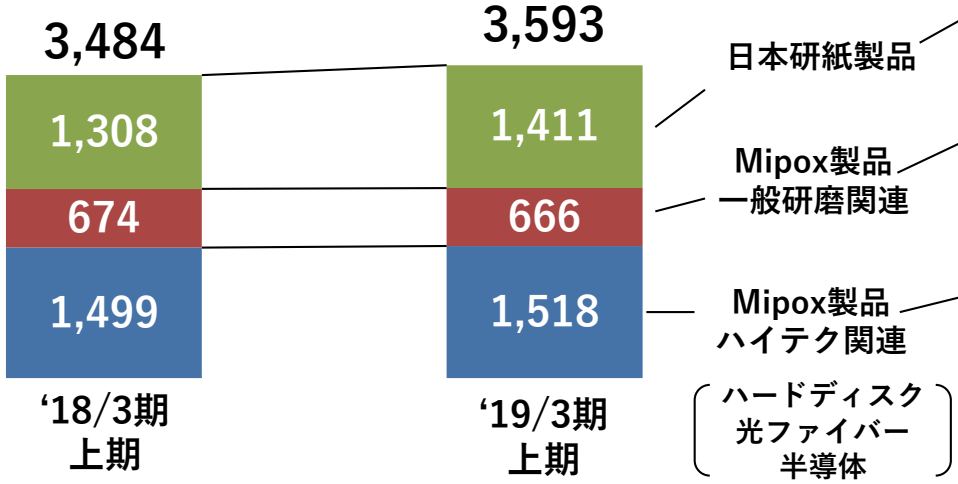
製品事業

mipox

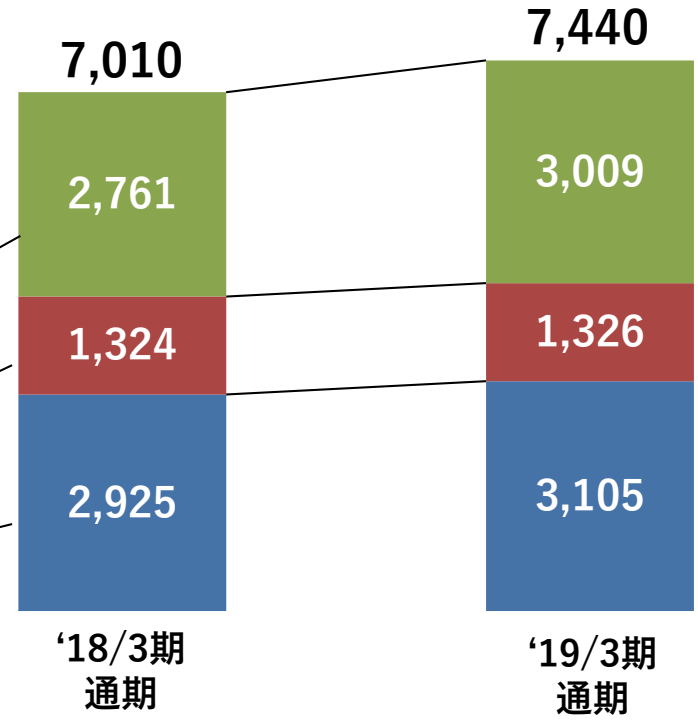
[上期実績]
- Mipox製品ハイテク関連は前年好調の光ファイバーが減少の一方、ハードディスク及び半導体が増加。
- 日本研紙製品は研磨装置の売上もあり前年同期比で増加。

[通期見通し]
- Mipoxハイテク関連は光ファイバーおよび半導体は前年並み。ハードディスクは前年を上回る見通し。
- 日本研紙製品は当初計画よりも落ち込むが、前年を上回る見通し。

売上高 （単位 百万円）



売上高 （単位 百万円）



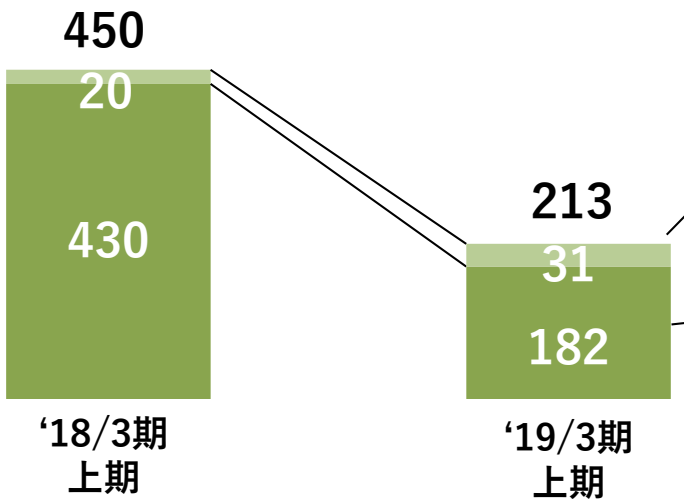
受託事業

mipox

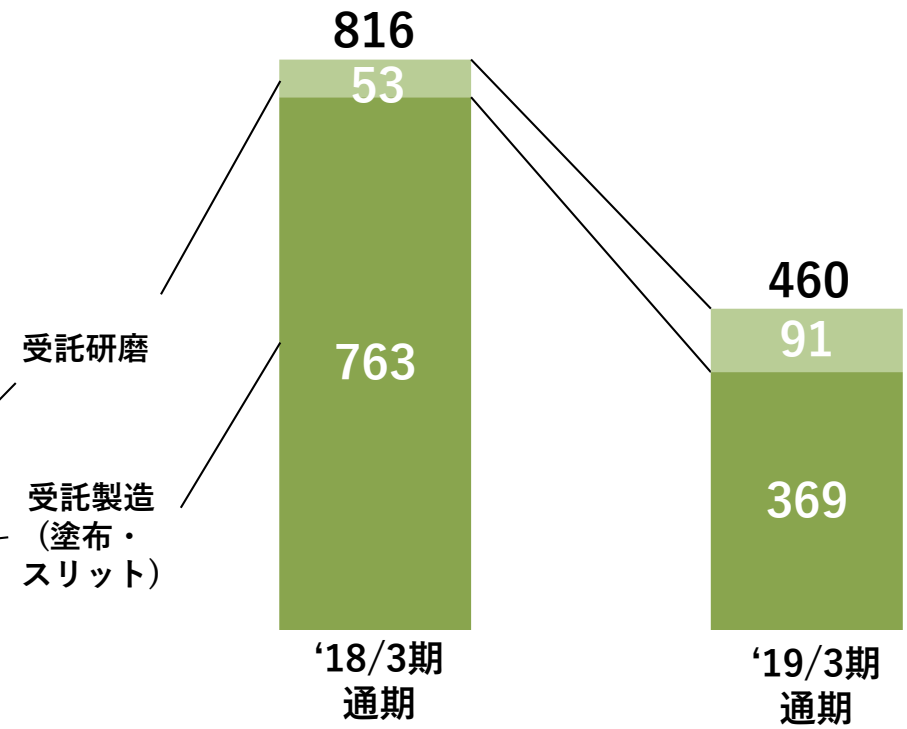
[上期実績]
- 光学系特殊フィルムの受託塗布の需要減により、受託製造の売上が前年同期比で大幅に減少。
- 受託研磨の売上は増加。

[通期見通し]
- 受託製造は今期の回復は見込めず、通期で前年を大きく下回る見通し。
- 受託研磨の売上が下期でさらに伸びる見通し。

売上高 （単位 百万円）



売上高 （単位 百万円）



目次

1 2019年3月期 第2四半期累計業績

2 2019年3月期 通期業績見通し

3 2019年3月期 下期以降の取り組み

受託事業の海外展開

中国拠点

中国市場におけるバッテリー関連の
受託スリットを強化。

タイ拠点

2018年1月設立のアユタヤの新工場に
おいて、東南アジアを中心とする
受託スリットの開拓を図る。

海外での受託案件の拡大を図る

日本研紙製品の海外展開

タイへの生産移管

コスト力強化のため、ファイバーディスクの生産を国内拠点からタイへ移管。

(用途例)

船体や車体などの鉄板面の研磨に主に使用される。

ファイバーディスク

新製品の開発

海外市場のニーズに合わせ、現行の研磨紙の機能を改良し、新たな市場を開拓。

(用途例)

自動車部品から家具などの木工素材まで、様々な用途の研磨に使用される。

研磨紙

海外市場での拡販を加速

新たな組織の開設

mipox

「エンジニアリング」を推進する組織を、2018年7月1日にMipox株式会社、および子会社である日本研紙株式会社にそれぞれ新設いたしました。

CSE IS室（Mipox）

次世代パワー半導体や高速無線通信などの成長が期待される分野で付加価値を創造。
“InnovativeなSemiconductor”を実現させる。

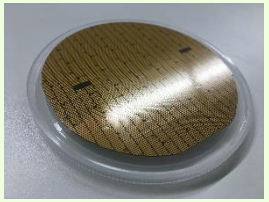
CSE FSP開拓室（日本研紙）

FSP(Fine Super Pellet)に代表される固定砥粒研磨の技術を活かし、プリント基板（PCB）や半導体などの分野で付加価値を創造。

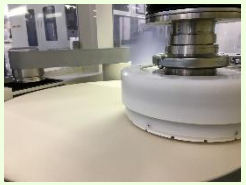
CSE（Customer Success with Engineering）をベースに付加価値を創造

化合物半導体分野への挑戦

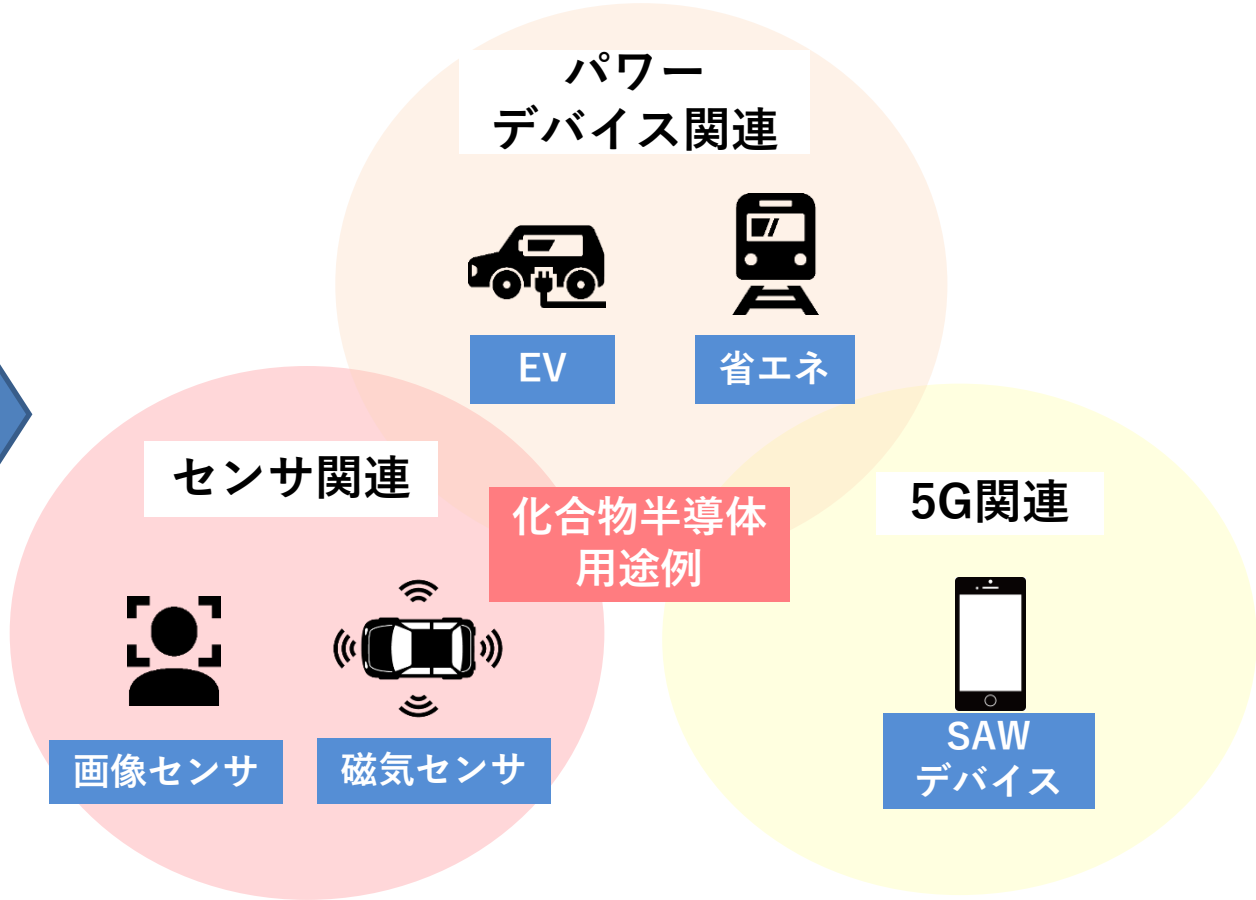
様々な分野で需要が期待される化合物半導体。
それを構成する部材の高難度研磨を実現する。



化合物
半導体



研磨風景



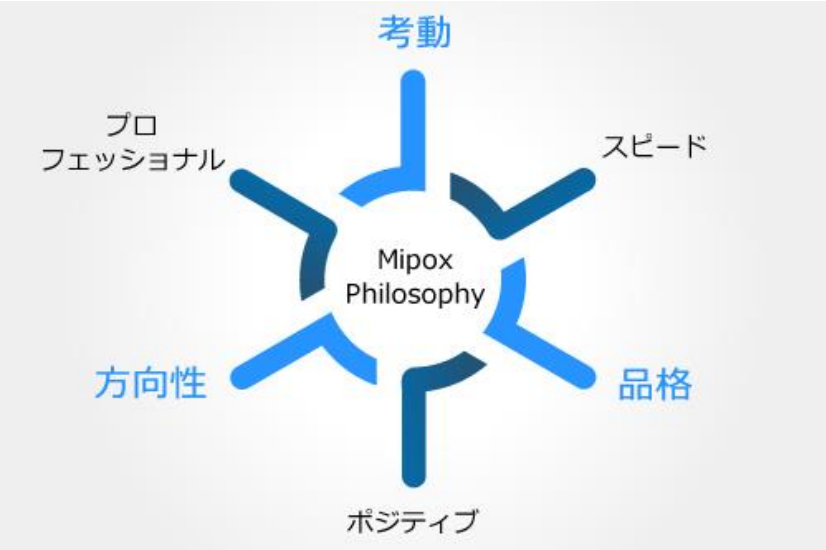
お客様の成功を支える高付加価値の提供

mipox

IRに関するお問い合わせ先

Mipox株式会社　経営企画部
　山崎 友裕

電話： 03-6911-2300
E-mail： mipoxir_dept@mipox.co.jp
URL： http://www.mipox.co.jp/
Facebook：https://www.facebook.com/mipox.japan/



本資料における注意事項
本資料に記載されている将来の業績に関する予想、計画、戦略などは、いずれも当社グループが現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、これらは経済環境、競争状況、需要動向などの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。